

自由連合

Libera Federacio

1969.

20. Dec

Nro. 10

姫路市

亀山354

向井方

自由連合社

定価 送料共

1部 30円

カンパを!

(ボエの時期です)

救援も聞いだ

ルポ1

十月二十一日 口原反戦隊の
当日、現場救援に出かけた仲間か
らの連絡の授受のために本部につ
めていた私たちは、翌朝から始め
る差入れの準備に精を出した。
署に留置される被逮捕者は、
約40人と見込まれたが、おにぎり
50人分、100円を用意した。洗面
具、衣類なども一人分ずつセット
された。

十月二十二日 Y署に留置され
ているのは約20名ぐらいだという。
そのうち数名は留置番号がわかっ
た。あと十数名については、何と
留置番号を聞き出した。留置番
号がわからなくても、洗面具ぐら
いは入れた。何も受けつけられ
なくても、いわゆる市民の顔が警
察力の在り方を注視しているとい
うことを示さねばならない。

Y署の空気があつた。押した。
押し問答のすえ、公安課長まで出
てきてや、こちら人分だけ入った。
あと十数名については、留置番号
を「教える必要はない」「教える
義ムはない」と押し切られた。そ
の向、留置されている人数が、
6人から「20人以上」になり、
いっばいという風に、三人
の刑事から別様に伝えられた。

十月二十三日 「弁護士でない
人に留置番号を教えるわけにはい
かない」に依りて、A弁護士に同
行をお願いした。20人分のおにぎ
りその他をもつて、「人手が
足りないから受けつけられない」
に依りては、前日と同じ問答のあ
と、刑訴法第81条を楯に、とにか
く五人に食物を入れた。留置番号
については「A弁護士は被逮捕者
から送付されていなければならな
い」といって、その上、
送付届を出させないで「警察のも
ち時間」に余裕がないと、番号は
聞き出せなかった。

十月二十七日 10日の拘置の決
まった人たちの留置番号がわかっ

ルポ2

私の場合

戸塚署・四谷署への差入れ

戸塚署は当日、激烈なやりか
り直接の攻撃目標となつたところ
翌二十二日の差入れには、みけん
糾そう書を大げさに貼った私服や刑
手が、敵意もあらわに妨害に出た。
「番号だけではダメだ。牛や豚なら
ともかく人間ならちゃんと名前があ
るだろう」へスタ抜いしているのは
お前達じゃあないか、などとどなり返
したくなる気持ちを抑えて、「お互
いに人間ならわかるでしょう。朝起
きてタオルも歯ブラシもなくしては
うしようもないです。せめて洗面
具だけでも収容人数分入れて下さい
よ」——こつこつと言はば泣き落し
て、一人分でも入ったらしめたものだ。
が、刑事は「内部で買える」とい
同席の奴らに借りるさ、と、所持
金のない場合でもどうにかしてくれ
るようなことをほのめかした。し
す。へ警察がそういうこと、面倒を
みてくれるものなら苦労はないわけ
でしよう。

戸塚署では、本人の「知らない
人からの差入れは断つてくれ」と依
頼されているとこれほどの明々白
々な大義名分があろうか、とばかりに
繰り返された。この馬の骨
ともわからぬ者から食べ物を買える
と思うか、というわけ。当人が
全くの自由意志で拒否しているとは
ちよつと考えられない事態ですが、
「本人の筆跡になるものを見せてく
れば納得する」と談判して入れさ
せました。

た。Y署は8人、うち一人は接見が
許されているという連絡があった。
Y署で、「15号に接見したいの」す
が「自分ではかたして、両眼にぼろ
帯したマツ、もうここにはいられない
東京拘置所に移管された」「そんな
はずはない」「いないから、いない
」「では、あと7人の差入れをし
す」「身分証明書を覚えて下さい」
「この名刺の通りです。すでに、二
回、差入れもしました。受け付けの
方を始め、公安課長も含めて、多
くの署の方が、その事実をご存知で
す」「検事の許可書がいります」「
Y弁護士を通して、差入れ禁止にな

四谷署の場合は「差入れした本人
が前の品物が本人にわたったかどう
かを確かめるために自分の差入れ簿を
みることは出来るが他人のものを
見るわけにはいかない」とかなりも
っともらしい理屈を聞かされた。
「一応受け取りましたら、一口
も食べずにゴミ箱行きだろ」とい
うわけ。そんな悪態に意気沮
喪してたら差入れはつとまりません。
「青が入って、誰か責任を
るつもりだ」と身元を根ほり葉ほり
せんさくされることもあります。セ
ンター名で、あるいはセンタ、内の
何人かで従来入っていた既得権をど
うしてもくずされないようにしなけ
ればなりません。

四谷署では、本人の「知らない
人からの差入れは断つてくれ」と依
頼されているとこれほどの明々白
々な大義名分があろうか、とばかりに
繰り返された。この馬の骨
ともわからぬ者から食べ物を買える
と思うか、というわけ。当人が
全くの自由意志で拒否しているとは
ちよつと考えられない事態ですが、
「本人の筆跡になるものを見せてく
れば納得する」と談判して入れさ
せました。

救援とは何か

尾関弘

〈現況と救援闘争〉

① 10・21につづく11月闘争によって引き出され、顕在化した権力の暴力性は、日増しにエスカレートしてきている。それに伴って、闘争側の犠牲者の数も、驚くほど多数にのぼっている。

② そのため、逮捕者、負傷者の救援活動は、すでに闘争そのものとして、その重みにおいて重要さと緊急度を増し、ばく達一人一人の前につきつけられてある。

③ 救援闘争（活動ではない）は、最初は、権力の弾圧に対する受身的なものであったが、今では権力の攻撃に先手をとり得る新しい闘争の陣いを意味するものでなければならぬ。

〈救援の思想〉

④ 救援活動を円滑化、能率化するために救援センター、あるいは何々の救援組織があるが、それらは単に救援活動の媒介物にすぎず、そこにある関係は、救援しようとする個人とされる個人があるだけだ。

⑤ それに、たしかに表面的には、救援する者とされる者という関係であるかも知れない。しかし、次第に、より対等な人間関係、スーパ一の言葉を借りれば「われとなんじ」と呼べるような非利用関係に止揚されねばならない。

⑥ それをもたらすのは、両者における政治的地位、位置の類似であり、それによる「反権力」の意識の共通性であろう。

⑦ いま一つは、救援を人間的行為の基本としての「相互扶助」の一環として理解することにある。「相互扶助」とは権力に庇護されたり、扶助されたりすることを拒否した人民の人民への実質的連帯行為である。

⑧ 救援という行為は、カンパヒが差し入れのうちに、表面的には物質的な関係であるが、救援そのものは、お互いの反権力の意識を確認し合い、連帯を示し合うというところから精神的な相互関係で結ばれている。

⑨ 救援活動が反権力闘争である限り、安易な同情や、赤十字的精神

神、あるいは闘争の免罪符を救援という名を借りて金で買おうとするようないいかげんな気持ちでは、救援闘争を続けることはできない。一面の二つのルポはそのことを良く示唆している。そのような気持ちではもちろんのこと「救援する」者のワケから出ることはできない。

⑩ しかし、また、十分な反権力意識を持たないで救援活動に入っても、権力の実際に触れるうちに皮肉にもそれが反面教師となって、次第に反権力意識が目覚め、闘士として巣立っていく場合もよくある。

⑪ セクトがセクトの救援組織をもつのは当然である。が「自分たちのセクトしか救援しない」というのは、余りに政治的すぎる。（もともと、自分達のセクトだけでも完全に救援するに充分な能力をもっているセクトは見当たらないのが実状だ。）

⑫ また活動家が救援を軽視したり、「お前は戦術的な活動をしなさいから救援しろ」として、「救援される」とことを当然のように思っていると大きな間違いである。

⑬ 今日の状況では、救援する者される者の関係が、条件が変わればすぐにでも逆転する可能性がある。

⑭ 救援するものは、その闘争の残骸が手さられたという意味において同時に救援されるものであると同時に、救援にはもう立場の違いは認められなくなり、大きな人間集団の基本的相互行為が見られるだけである。救援闘争はそこまで深化されてはじめてユニークな強い闘いとなる。

〈救援闘争が切り拓いた新しい闘い〉

⑮ 救援闘争には多種多様の参加の仕方がある。それは多くの人に自分にあつた闘いに参加させることを可能にする。街頭では、同じように闘えない人々、戦術などで闘う人と意見は同じではないが、権力の暴力に怒る人らも救援闘争に組み込むことができる。

⑯ このようにな多くの人を組み込み、広大な裾野を拓く運動に支えられてはじめて権力を振憾させ得る強固で巨大な反体制運動が展開できるのだ。

⑰ 「顔をあわせれば内カバ」と云われるような現在の左翼諸セクトに代って、超党派あるいは無党派の救援組織が統一集会や統一行動の産婆役

を引き受けることが可能である。（すでにその例がいくつもある）

⑱ そこにはもう救援という自身のな姿はなく、救援の思想として養われてきた新しい思想をもたつてうって出た新しい行動が形成されているのだ。それはまさしく新しい戦力であり、既成の左翼諸セクトに与える影響は測り知れない。

⑲ 救援の思想は、脱政治的に、しかし「反権力」であらゆる諸力を連合する要素を含んでいる。この理念こそ現在の日本の反権力闘争に何よりも欠けていた点ではないだろうか。

⑳ 運動そのもののの中に、参加するものを自然に鍛えあげ、成長させ得る機能を持っているのも救援運動の特徴である。それは赤十字的なレベルでの市民運動をも立派な反体制運動に育てあげ、新しい活動家層の育成を保証することになる。

〈今、何をすべきか〉

㉑ 他人を救援することが、実は自分自身を救援することであるのを感じずにはいられない。救援が必要不可欠の反体制闘争であることを確信するために、全力で救援を闘い抜かねばならない。

㉒ 今日における救援の意味は、自らが救援闘争に参加してはじめて理解することができる。今、何をすべきかとの問いに対して、「自分」にできることから救援に参加する」という答以外に解答はない。

㉓ 救援闘争には、まずもって臨戦状態な救援処置が必要である。負傷者の応急治療、弁護士の手配、日用品の差し入れ等々ある程度の慣れや経験さえ要求される。差し入れが一部に集中しないために、誰が何処にいるかをすぐに知るために、救援連絡センターの果たす役割は大きい。

㉔ 一般的に、救援連絡センターの存在と活動に対する認識が充分でない。△東京都港区西新橋2の6の8浅野ビル 救援連絡センター、電話591の1361、関西は大阪府北区豊津町125 関西救援連絡センター 電話373の0779を確認してみよう。そして、日常的に、一人でも多くの人がセンターと連絡をとる必要がある。地域救済・個別救済との連絡はそのあとだ。

㉕ 日頃から衣類その他日常生活用品（タオル・歯ブラシ・チリ紙の類）のストックに心がけておこう。自連社でも取り扱っている。

「サンケイ」のデマを糾弾する

11月6日「サンケイ」の夕刊につぎのような記事が掲載された。つぎの幹部への不満、差入れ面会もない。

10・21日際反戦デー事件が起つてから7日ですでに7日。約千人の学生に拘置が延長されて、特捜本部の取り調べはようやく軌道に乗ってきた。逮捕学生の中には、抗争のあり方や救済対策に不満をもちす者も多く、特捜本部は、印各セクトとも末期的な症状をみせているといい切っている。

鶴見女子大生に(20)は、同部対本部の人たが勝手に私の下宿から衣類を持ち出して、他人に差し入れてくれている。現に、私といっしょに菊屋橋に留置されている女性の中には、私の服を着ている人もあると憤慨、印後は参加しない山と誓った。特捜本部では、Kの申告さえあれば、救済対策の関係者を盗みの疑いで捜査することにして(後期)。

X X X
翌日警視庁護士がKさんに会った結果、次のような事実が明らかになった。
Kさんは、10・21抗争で同じように逮捕されて24日に釈放された友人に、自分の分と共に獄中の仲間への衣類の差入れを頼んだ。頼まれた友人は、彼女の下宿から持ってきた衣類に自分の物を加え、大学救済と救済センターを通じて差し入れた。

一方彼女は完全で閉っていたが、鶴見女子大当局が警視庁の顔早真と照会したため、身元を割られてしまった。

警察は彼女の下宿を捜査した時、衣類が全くなかった。さらには調査し、救済の人間がそれを持ってきた。同じ署に留置されていることを聞き込んだ。警察はKさんの母を呼び出し、「救済の人間が部屋に勝手に入って荷物を持ち去り、部屋を荒らしていた。現金も失くしているのではないかしな」と救済への不信をあおりたててることを云った。
母親は学校当局からも処分をす

るなどとおどされていたうえ、さらにこのようなことを聞かされて動揺し、Kさんに面会した時その事を責められたのである。

X X X
サンケイ新聞社は以前にも東八南で宛然していた菊屋橋(01)一棟を真実を「タリフ」に掲載し、権力の手先になって身元を洗ったという常習のタチの悪い「タルツヨア」ジャナリズムである。われわれはこれら権力と結託したマスコミによるデマを断じて許せない。それをことごとく暴露し、産経の告発を金もあらずる攻撃を全力でもって行うつもりである。

最後に、新聞を読んだKさんは権力とマスコミの卑劣な策動に心の底から憤りを感じ、さらに黙秘を貫徹し、肉に抜く決意を明らかにしている。Kさんの居る菊屋署では、微罰のため獄房に入られ水やうとも、毎日全員で「シュビレヒコール」、インターを歌い、点呼を拒否する肉が絶えている事を報告します。

救済活動の中傷を許すな！
マスコミを包圍攻撃せよ！

読者室

④ 自連の大きな特徴は、毎号同封するアンケートの回収率が抜群にあることである。

アンケートは編集室と読者を結ぶパイプだ。送り返されてきたアンケートに叱咤されたり、勇気づけられたりしてのろのろと歩みを続けている自連である。

アンケートに寄せられる意見の全てを自連紙に反映し得たとは云えな。そのことを反省しつつ、全員の仲間からの声や肉の報告の一部をここに紹介する。

④ 何か今すぐ、誰かと、とにかく語り合いたい。話し合いたい気持ちです。これからアンケートをぜひ送って下さい。鉛筆で真っ黒になったやつを。(編集室・尾関)

☆ ぼくの大学では、ウソも言解もそれぞれお家の事情で壊滅状態。いまだヤンセクト野合集団の独場と化してしまった。観念的な政治肉争に一扶の怒りを捨て切れぬ連中

には、今の運動は余りにも改良主義的でやっていけないのでしよう。帰るべき日常性そのものを問題にした瞬間から、帰るべき場所が運動の他になんかあるか実感としてわかりました。活動家ではないのに。本当に永続的な肉争になりそうです。ワラスやゼミに入っていくと、フツスムへ個人利害の徹底的追求と排外的思考、そして評論家の態度を肌で感じることがあります。(小樽 Y・Y)

☆ ぼくの勤める学校でも尊敬すべき若者達が反乱を起しました。公務員としての地位で肉う人間としての地位を問われています。それは全くもって苦しいものです。それに戦って学生時代の運動は気楽なものでした。心平運の方も戦場での肉争ができてないので、人知れず街頭へ出て反戦を叫んで気をまぎらわしました。ぼくにとっても、これまでの学園肉争はいかに理解していたかと思っても、やはり他人の肉いでした。肉いは自らが参加しない限り言葉では理解できないものです。これからのこともすべからず知っていたつもりでした。そうではなかった。(旭川 R・K)

☆ 最近の共産隊の整備実力はすでに決定的な壁です。その後には自衛隊・米軍がかわっている戦力を前にしてのゲバ作戦は、いかにエスカレートしたところでB29と竹やりの感があります。

そこで今一度力を注がねばならぬのは、全国ストリゼストへの指向です。交通と情報関係だけでも全同的ストライキに入ったら、体制と独占とに与える打撃は測り知れないものでしょう。革命は今日、経済の根幹をマヒさせる以外その導火線はないでしょう。

そのためにこそそれを邪魔している存在、総評との対決を志向する労働運動に賭けようと思います。(東京 M・N)

☆ 今高校で自由を求めて肉争を行おうとしています。が、学校側の事前弾圧で思うように進みません。運動している者だけを孤立化させてはなりません。一般学生、市民といった層が運動に参加しなければなりません。後衛の前衛になる時革命は起る。(大阪 K・E)

70年代に突入するため

不服従者連合戦線
「革命地下通信NO.1」より

情況

1. 「秋期決戦」
「70年決戦」は、二つの理由によって革命の第一段階にすぎないと考えられる。その理由の一つは、学園闘争、基地、反戦闘争において、今日の体制を支える大衆の「共同幻想」の一面をきりくずしたとはいえない。またその中に、正史の新しい底流を形成するような流動化をひきおこし得ていない。他の一つは、反戦青年委員会、ベ平連運動の展開によって、体制内化されてきた既成労働運動者組織の解体の緒口をきりひらいたとはいえない。なお、その全面的な解体へ向けての核を形成し得ていない点である。

2. 全国全共闘にしても、強化された弾圧体制下にあつて、個別闘争を組み得ぬところまで追い込まれた各学園全共闘の延命策のための野合、即ち、後退局面に立たされた事による統一に他ならない。そうであるかぎり、それが真の革命戦線として自らを形成し得ないばかりか、内部におけるセクト争いの現実からみて、おそらく11月決戦が終わった時点に於て、深刻な総括を迫られていると言えるだろう。

3. また、新左翼戦線を「暴力」と宣伝することによって、合法的カンパニア闘争の「民主的イメージ」に労働者大衆を動員し、票化を狙っている社、共も、結局は、権力および自民党が、70年議会と政治的、効果的に運営しつつ、71年、73年の間に、日本帝国主義のより自立的な体制確立を目指しているこの策謀に加担する以外の何もものでもない。

4. このようないくつかの状況に対して、左翼戦線がどれだけの反撃を用意できるか。そしてそれをいかに革命に結合し得るのか。これが現下最大の革命的問いである。

を表面にとどめ、地下に全国的な通信網を張りめぐらし、来るべき「同時多発叛乱」の準備に着手する。

2. 現下にあつては、最大の革命闘争の拠点たる高校、大学の各学園全共闘を再編、強化し、表面は学習会、研究会、カンパニア集会等々の運動を展開しつつ、海中に氷山の如き、革命的自由連合組織を形成する。

3. 地区反戦を再編し、企業別組合、既成組合を越える革命を志向する労働者地区組織を形成する。それは、既成組織の中に非合法的に浸透して行き、これを切り崩しつつ、従来の合同労働的性格をもつところの地区解放闘争の主体的組織として形成されねばならない。

4. 反戦市民運動のもつ直接民主主義を志向する闘争の積極面、現時の文化、学向のあり方を否定し、普遍的価値を追求する文化、芸術、自律的研究集団の闘争の積極面を評価し、これと地区反戦労働者組織、及び地区内の高校、大学の全共闘との連合を追求すること、地区ソ、イエト運動の核を形成する。

当面の活動

1. 革命は短期決戦でけり

戦略・戦術メモ

1. 全国の革命者は、セクト争い

がつくものではない。大衆の幻想を放置して政治権力を奪取しても、幻想に依拠した反革命を警戒する結果、前衛集団のフロレタリヤ代行独裁を固定化してしまふおそれがある。とはいえ、少数前衛者の行動が、一時的でも大衆を覚醒させる側面をもつことを否定するものではない。か全運動をそうした行動に収斂してしまふことは、革命の放棄につながる。

2. 各学園、職場、地域において、合法、非合法の研究會、学習會を組織し、自立的な革命頭脳を形成、拡大してゆくことが必要である。

合法面では、とくに、「民主主義」とは何か、「議会とは何か」、「政治

とは何か、「学向、研究、教育とは何か」、「学校とは何か」、「試験、式典とは何か」等々と云った、従来大衆が無批判に受容してきたことごとくを問題として提起することによって、日常性をつつむ幻想を暴露していく活動がのぞまれる。

3. 地区においては、
① 積極的にベ平連、反戦等に参加して行き、その共闘と、それを通しての地区ソ、イエト運動の核の形成を追求する。
② 市民集会と企画したり、既成のそれに参加して行き、その内的変革、幻想破壊を行うことも必要である。
③ 選挙の立会演説会に参加し、これを大衆団交、人民裁判の会場に変え、棄権運動を推進したり、反税同盟をつくり、議会民主主義の幻想を破壊する事も考えられねばならない。
④ 外部からのスパイや内部からの脱落者をいさなう注意しよう。

われわれのドス黒い情念を、屈従も広散も安っぽい爆発もさせることなく、論理のムチで鍛えあげよう。革命は理想ではない。果さねばならない課題なのだ。

自連社報告



自連社では新しく印刷機を買い替える必要に迫られています。
① 今の印刷機は相当に老朽化し、今のままでは長く「自連」を発行し続けるのはほとんど困難な状態です。加えて、最近「自連」の発行部数が大幅に増えていきますので、今度はどうしても電動式輪転機を購入したいと思ひます。

2万円を目標にカンパ

② カンパされた方には、「自連」をしばらく無料送付します。
③ 購読申し込み済みして下さい。3号分は、宣伝用に無料でお送りすることとはあつても、それ以上は紙代又はカンパのない限り打ち切ります。へ近々、振替口座を持ちますので送金がお楽になると思ひます。
④ 自連社では、多くのグループと機関紙の交換を希望しています。機関紙を定期的に送って下さる方には、「自連」を無料で送付します。

★IWWとフランク君の来日

IWWとは、インターナショナル・ワーカーズ・ユニオン・オブ・アメリカのシカゴ本部をもつアメリカ・サンジカリストの組合組織である。

シカゴは、最初のメーデー事件として有名なハイマー・ケット事件という輝かしいアナキズムの歴史をもっており、伝統的にアメリカでも、もっともアナキズム運動の盛んな土地である。とくにIWWを中心とするアナール・サンジカリスムの運動は、完全に保身化されたアメリカの労働運動の中で唯一の革命的労働組としてユニークな存在であった。

しかし、今までわれわれの知っている情報では、IWWが老齢化官僚化してきていること、したがって、今度のフランク君の来日はその危機を一度に吹き飛ばして、フランク君は23才のタクシ

伝言板

ー運動手で、同業の青年労働者を集めてIWW傘下の合同労働組を組織しようとしている。それに、何よりも彼のような若い青年が、絶望的とも見えるアメリカ労働運動界にあって、しつこく真の労働運動のあり方を追求、実践していることに驚きを感じ、勇気づけられた。

フランク君の来日によって、70年に何けた、日米アナキストによる共同行動、とくに沖縄をめぐる具体的なフロタラム実現の可能性がもたらされた。

フランク君は、東京ではバブル・テールの会が、大阪では自由連合社が主催した会に出席して、一週間の滞日を終り、帰米した。

★インターナショナル・ワーカーズ・ユニオン・オブ・アメリカの来日

いま、全世界に生起されている潮流のような変革の状況は、なべての体制秩序の死滅を予兆する。

人間、とりわけ若者を、党派の論理でもはや呪縛することはできない。新たな変革の運動は、人々がそれ以外の自由な意志で自由に連合する方向にむかわねばならない。

われわれがよびかけるIWWで

は、党派的・政治主義的なこれまでの音楽運動とまったく無縁の地獄で人々を結集しようとするものである。

すなわち、70年4月7日の東京一万人フォーク・フェスティバルを皮切りに、このキヤラバンが分散・集団しつつ全国を縦断、さまざまな形態の演奏会を大都市で叩き回し、ついに、26日日本土最終日程を完了して、鹿児島市から海上キヤラバンを組んで沖縄に渡航する。

27日沖縄県・前夜から翌朝にいたる「徹宵コンサート」にち万人の青年労働者、学生、市民を集めて全日程を終る。

10・21日国際反戦デーの早朝、ロート・シーカーからレン・チャントラほか14人のフォーク歌手、黒人前衛フォーク歌手らとともに参加するといふ電報がとれた。さらに、キューバ、中国、ベトナム、朝鮮等の諸民族の歌い手が続々とIWWに結集して来るだろう。諸君のこの運動への積極的な参加をわれわれは期待する。各地方、各都市のフォーク活動家、スロト・アマを向うめ、歌い手としてわれわれの運動に、同志として参加しようとする自由な個人の連絡をまつ。

（連絡先：東京都渋谷区神宮前4の3の15 東京セントラルアパート219号 高石事務所貸付 IWC全口実行委員会準備会）

★「九州通信」創刊号

九州活動者連合準備会機関紙

「九州通信」は九州の各地に散在する活動家の小集団および個人らへ情報提供し、相互媒介の機能を果たすことをさしあためた、その目標として誕生した。各集団や個人らは、それぞれの場合で固有の問題にとりくみつつ、反体制活動を行っている。が、集団相互間の有様性の欠落は個々の工作を手工業的な限界に閉鎖してしまっている。

政治的既成組織に所属してはいない諸思想集団は、いわば手ごわりで、民衆の自発的な運動体との連帯をえねばならない状況である。あるいは既に諸組織の膠着状態を打破せんとする個人たちも同様だ。

私たちは自然発生的な集団の個々のエネルギーを現状の分散状況に放置せず、有効な運動体とする必要がある。各地の創造的諸集団や活動する個人らの連絡をまつ。「九州通信」は今後多様な形で各地の運動を紹介したり、相互の連絡をとる仕事をうけもっていきたい。

（連絡先：福岡県中岡市本町6丁目九州活動者連合準備会事務局）

★「スライム」ヤ2号

現代という重い状況に耐えうる新しい思想と、新しい社会主義の創造への実験の場として、同人による徹底した思想の検証と相互批判のための研究誌を月刊発行することを目指している。

尾関弘が「ニヒルとテロル」と「フランス五月革命の思想と行動」学生運動の思想としての労働者管理の思想としてフランス五月革命での労働者の実際の検討している。

滝理が「官憲批判」——安全保障の意図として、意図と意志の問題を心理学的方法で追求している。

（購読は、大阪市東住吉区桑津町6の90 山口方「スライム」同人まで 郵送料共で百円。）

★わが「おきなわ」

ー死者へのひすかな痛みを残して、破壊された神像は未だ未知の夜明けを告げていない。巻頭の「おきなわ」を考える。その一節である。製鉄所の街八幡、その近くには数多くの問題が散在している。それが、新豊炭田であり、大村収容所であったりする。それらの問題は共通してわが「おきなわ」と呼ぶべきものであり、「おきなわ」に象徴されるような形で私たちの生活に生きている。その生に耐えながら自らの日常性を考え、そこをどうするのかが「おきなわ」を考える会である。

「職場掲示板」という欄には、鉄鋼労働者の体臭が伝わるようなユニークな記事がみられる。

（北九州市八幡区岸の浦2の4の8「おきなわ」を考える会）月一回発行

★今週の脱走兵（後）

○JATFに連絡をとって来た兵隊数12名——北海道4・東北8・関東28・中部5・関西7・四国九州7・沖縄43

○近く脱走を予定している者12名

○米軍内にとどまって反戦活動を行うもの9名

（「脱走兵通信」東京都保谷市中西2の2の3 大久保方）

理論創造 Vol.4

「理論創造」は、学徒に開放せられた訓練の場である。実践への本能的欲求を押さえて、羞恥・嫌悪と苦悶しながら、冷ややかな眼で現実をみつめたいとある。

森下紀夫は「思案ノート」で、学問権を国家と対立するものとして取りあげている。国家は政治の主体であり、戦争の主体である。

その国家の廃絶に戦争を否定し、政治を否定する人間の権利を対置させる。国家廃絶の権利意識の一つとして、学問権は有効であるかどうか。現実の学園闘争と合わせて興味深い仮説である。

(連絡先、東京都豊島区長崎三の三九の五 平和荘内 山根由利生)

ダムダム 3号

編集者より「ダムダム」は、アナキズムを後生大事に抱え、わつつもりはないし、マルクスだろうが何々主義だろうが、良い臭いとは欲に現取したい。真の民主主義の永久革命的な性格に従ってアナキズムも常に修正されていくわけばならないのではないだろうか」という態度に期待する。

日本民族の解放をめざして「北一輝私見」アナキズム運動の飛躍的發展を克ちとうろく／断片的社会主義アリズム論批判

(黒判社改め日本改造社)

無政府一直線

無政府一直線を背叛社の恣意性の上に立つ客観的認識↓敗北の総括から理論創造へと、状況主義への便上ではなく、無政府主義の顕化へ、暴力化への資料として斗う諸君に送りたいと思います。

多数の人々の巧みな弁護の中に歴史は消し去られようとしています。虚偽は色濃く影を落とし、不吉な中傷の投げ合いと相互批判の穴如く、不用はハネ上りと、怪我の増加となり、我々の負債を日々重ねるような状態に終止符をつけ、全国的な交通網への建設の志向を込めて。(和田俊一、アあとがきより詳出)

背叛社第一、二期斗争報告／十六事件総括／現状分析／反選挙

反議会の思想と行動／哲学論、体制論の各章に分れている。

(発行、東京都豊島区北大塚三の二の五 一居荘 金澤一 定価三円)

BAMBI NO.30

ドストエフスキの「罪と罰」に於ける思想の機能について、延原時行が現象学的方法に沿って究明している。

なお賀茂兄弟団の自立学校12月の予定は、7・16・21日、阪急六甲駅から徒歩5分、神戸学生センターで開かれている。

(発行先、川西市加茂豊田10 加茂兄弟団)

京都自連読者の会(仮称)が発足

自連社では11月に、岡山・大阪・京都の各地で「自連読者会」を組織してきたが、その中から早く京都で「自連読者の会」が一人立ちすることになった。

例会は毎月4月曜、6時から八京都百五通下る、一筋の西入る、京都材料学会会談室で行われる。連絡希望者は、当日直接会場に行くか自連社まで問い合わせを。

このように各地で、自連の読者会、読書会を串こうと思われの方はぜひ自連社まで連絡下さい。

伝言板

急告 無党派の戦士 吉本君に

竜谷大学は京都でも最後まで全学バリケード封鎖を叩きつけた数少ない大学の一つである。その竜大に、去る11月11日、我々が導入され、竜大全共闘の指導者の一人であり、無党派活動家の代表「竜谷評論」の主幹であった吉本政之君が不当にも逮捕され、12月4日起訴となった。

11・11の機動隊導入は明らかに、11佐藤訪米阻止斗争の事前弾圧・事前検挙であると考えられる。

「ノンセクト」はノンセクト故にラジカルにならねばならぬとする吉本君の理論(京都マナ研機関紙)に不定形山創刊号より、全国で斗っている無党派活動家の諸君に多くの共鳴を与えるものと思う。彼と同じように孤立無援の闘いを

続ける全国の無党派活動家の諸君に吉本君への救援のソリタリテイ(連帯)を訴えます。(自連社でもワンパその他連絡を引き受けます)

最近の 外国アナキズム誌(紙より)

CIRA NO.19

CIRAとは国際アナキズム研究センターの略称である。最近半年間にわたって世界各国で発行されたアナキズム紙の詳細なリストを載せている。

また同誌は、今世紀の生んだ偉大なアナキストヘム・テイ(ヘベルギイ)の死を伝えている。ヘム・テイは、例のサッコ・バンゼツチの救命運動をヨーロッパで指導したり、フランコ・ムソソリーニ、ヒットラーに対してはCEDA(国際反ファシスト防衛委員会)を組織して闘った。スペイン革命にもアナキストとして参加している。

アナーキー 103号

「若者の権利」と題して新しい教育運動・学校運動を特集している。壁にかかれた文字／教育に関する不謹慎な提案(フリー・スクール運動の経験についての報告)／チーフのいない学校／次の休日に学校を閉こう(フリー・スクール運動の展望について)／教育という仕事と政策

アナーキー・ナウ

オーストラリア・アナ連の出したもっとも最近のパンフレットである。第一章、八敵、国家／雇用者／教会／政治と裁判／政党と政治家／保険会社と銀行と金貸し／在郷軍人連盟／新聞・ラジオ・テレビ

第二章、八われわれ人民、白人学生／労働者／ヒッピー、プロボキスツ／対民族主義インターナショナル／ナリズム／教育と自由学校／道徳と結婚と自由恋愛／貧困／相互扶助

WR L ニュース 9.10月号

WR L(戦争抵抗者連盟)はWR Lのアナリカ支部であり、これは、その機関紙である。国防省内部でのヒロシマ・テイ(バーバラ・レイノルズ)をはじめとする三人のWR Lの活動家が国防省内の建物で反戦ビラを配布して逮捕された。他。

われら未熟者

「高校生の異議申し立て(2)」

下城おる

さる10月31日、「高校生の政治活動に関する見解」という
まことに「ザケたツロモノ」が文部省より出された。その意味
したものは何かをばく達高校生に検討して
みよう。

(1) 「文部省見解」の背景

戦後の民主教育は、文部省↓教
育委員会↓校長というピラミッド
型の体制の中で、ばく達にとって
は、常に与えられるものとしてあ
った。権力の側から出される「見
解・通達」なるものは、このよう
な教育体制を維持・強化するもの
としてある。今度の「文部省見解
」もその一例にすぎない。同じ内
容の「見解」が、60年安保直後にも
出されたのを聞くにつけ、明らか
にそれは、政治的激動期における
権力の攻勢であると考えられる。

今度の「見解」が出された直接
的背景として次の二つの事が考え
られる。一つは、大学紛争に影響
された高校の学園紛争、政治闘争
の活発化であり、もう一つは、そ
の前文でも述べられているように
、各教育委員会、高校関係者の間に
ある統一見解を求める声にこたえる
必要があったのである。

(2) ばく達にとって教師とは

それにしては、お役所にしかたす
ら指示を仰がねばならない教育、
それに大阪府教育委員のよう、一
通達を盾に高校生の声を一挙に
押しつぶそうと企てる教育など、
もはや教育と呼べるものではない。

尼崎北高では、さる2月に教師
達が示した「指導三原則」によつ
て、校外の政治活動の自由はまが
りなりにも許されていた。しかし
一担「見解」が出されると、教師
達は県教委の指示を改めて仰ぎ、
自分達の「指導原則」と「見解」
を天秤にかけ、権力に誠意を示し
たのだ。

尼北高の一人の教師が「校内規
則は憲法に優先する」などとホザ
いたことがあった。多くの教師は
、「校内規則」生徒心得」というも
ので自分を威威化しなければ、生

徒に対して絶対的優位の関係に立て
ないのである。さらに最後の切り札
だとして入学時の「誓約書」がある
。それは教師の権威に生徒が従順す
るか否かの「踏絵」に使われる。
これら虎の衣を借りた教師は、ご
苦労にも、髪型から男女交際の制限
、出版物の検閲に至るまで「指導」
をして下さるのである。

そんな所に、真の「教育」が存在
するはずはない。教師は権力の先兵
として、体制的人間の飼育と反体制
的人間の抹殺を目的とした「教育」
に名を借りた「支配」を行っている
のである。

いかなる場合にも教師は一個の人
格として、ばく達の前に登場したこと
はなかった。日常性に埋没し、教育
理念を捨て去った教師は、知識を切
り売りするだけである。疲れきった
機械のよう。

このような教育体制に対して教師
が矛盾を感じたとしても、それは勤
評、学習指導要領というさらに大き
な権威によってひねりつぶされてし
まうことになる。

(3) われら未熟者

「高校生はまだ政治的に未熟」
であるから政治活動を禁止し、教
師に指導されねばならないとしてい
る。われら高校生に「未熟者」とい
うレッテルを張り、指導の名を借り
た支配を敢行する教師を許せない。
われらへ未熟者」にも未熟者なりの
権利を要求する主張があるのだ。へ
未熟者」と、人間としての基本的人
権を与えられるべきだ。

自らの人格を捨て去り、弾圧する
ことを指導だと本気で信じている教
師に聞こう。未熟なのはどちらなの
か。人間としての最低の人格や情緒
の未熟なのはどちらなのだ。

この向いに教師が誠意をもって答
えるならば、何よりも教師は生徒の
前に一個の人間として登場せねばな
らない。同じ一個の人間としてのへ

未熟者」の前に。

今、ばく達高校生が求めているの
は、ばく達を守ってくれる教師であ
る。ばく達の間にともに加わ
ってくれる教師である。教育の「ツ
」スミ化の嵐にさらされているばく
達のもとにまで降りてきてくれる教
師である。

(4) ばく達は何か改造反するの

小学校以来勉強は偉くなるために
するものと教え込まれ、それを信じ
て成績を上げるためにひたすら知識
をつめ込んできた。「受験」という
二文字は、そんな「」を呪縛し続け
るに実に都合のよい文字であった。
が、紛争によって大学が幻想でしか
ないことを知ってしまった時、目標
を失った絶望の中ではじめて自立し
かけている自分に気付くことが出来
た。そして「何のために勉強してん
ぬん」と自問した時、どこにも行き
場のない自分に気付いた。「現実」は
こうだから、君のような理想論は「
」と口ごもる教師の前に、現状維
持を唱えズルイばかりの教師なるも
のを知ったのである。

このことはばく達を自然と造反運動
に走らせた。その闘いの中からばく
達が迫りつつある問題の本質の意外
と巨大なものに気付くことができた。
すなわち教育体制の問題なのであり
、権力の問題なのである。「偉くな
るための勉強」では一生学ぶことの
ない多くのことを、衝動的に実感と
して学ぶことができたのだ。

(5) 文部省見解に抗して

「文部省見解」によれば、「全面
的に政治活動の禁止」を唱えている
にもかかわらず、生徒の突き上げを
うけた多くの高校では、校外での政
治活動の自由を認めているのが現状
だ。それは「校外まで生徒の面倒を
みれるから、しかし「私の目の届く
限りは、指導させてもらいますヨ」
という現場教師達のすこぶる巧緻な
考えによるものである。「文部省見
解」は教師の欺瞞性を更にさらけ出
してくれたのだ。

もちろんばく達はこれを許すわけ
にはゆかないし、校内外での政治活
動の完全自由を求めて闘争を持続
していく。
へ未熟者」が人間として認められる
まで、そして「真の高校生」を
自分達の手に取り戻すまで

連載 ヨーロッパ・アナキズム
武者修業の記 16

尾関 弘

△アナキスト・インターの巻△

ぼくがフロレンスからカララに帰ったのは、アナキスト・インターが始まる前日の昼すぎであつた。

世界から結集した参加者達の受け付け場になつてゐたのは、イタリヤ・アナ運カララ・クルーの事務所であつた。さて、ぼくも連て物の中に入ろうとしたが、入口から階段に上りてすでに人垣でいっぱい、受付けの三階事務所までもでも登れそうになつた。不思議に思いながら、それでも人垣をかき分けて階段を登り始めた。すると怒声と罵声の中に聞き覚えのある威勢の良い声が飛びこんできた。少し早口でシリエリの割れるような声、かなりに興奮してゐるせいか、いつもより聞き取りにくかつたが、独得の抑揚もつたその声の主が、タニエル・コン・ベンディットであることがすぐにわかつた。田舎な程々の群衆の原因がフランス五月革命のヒーロー、コン・ベンディットによるものであるのを知ると、なるほどと思ひれた。

アナキスト・インターは、準備委員会の段階より「一ヶ国一組」の代表を原則とし、いわゆるそれのナショナル・フェデレイション（各「連」の上）にインターナショナル・フェデレイションを被せようとした、すこぶる組織主義的な考え方を内包してゐた。すると、コン・ベンディットのようアナ運に参加しないアナキストは、参加できないで傍観するしか許されてゐないことになるのである。

コン・ベンディットの異議申し立ては、何よりもアナキスト・インターの組織主義と官僚主義に対して向けられてゐた。そしてそれを主張するためにも、非アナ運メンバーの会談への参加を要求した。

ス・アナ運で、彼らはコン・ベンディットを映画スターになりたがつてゐる若僧だとか、三月二二日運動はネオ・マルクス主義運動で、フアシズムの要素すら含んでゐるなどと罵つてゐた。しかし彼らは発言すればする程、コン・ベンディットが指適したように、組織主義者であり官僚主義者である本性を自ら暴露してゐた。

それに比べてイタリヤ・アナ運は、と理解のある態度を示した。オールド・アナキストが、爆発するやうな新しい青年のアナキズム運動に異和感を持つのは同じであるが、どちらかという物判りの良いところがある。その違いは、それを「国の運動の内部事情を反映してゐる」と興味深いものだ。すなわち、イタリヤではアナキズム運動が案外すつきりしてゐて、連盟は言葉の正しい意味での連合組織として、多くの性向をもつ運動、学生や青年のアナキズム運動を連盟に含むことにある程度成功してゐる。しかしフランスでは、アナ運はその排外主義的体質のために、ヘゲモニー争いを繰り返して、組織がよりよびてゐる。そしてアナ運の外により優秀なアナキスト・クルーが群雄割拠してゐるといえるだろう。

とにかく非アナ運メンバーのインター参加は、「オオサーバー」としては認め、発言は許すが決定権は持たない。そのうちインターが結成される、インターを通じてアナ運に加わるよう働きかけよう」というイタリヤ提案が大勢の意見となつたが、それに激怒したフランス・アナ運の代表は、両手で机をドスンと叩くと席を立つてしまつた。それは、明日から一週間、わたつて繰り広げられるインターの激戦を予兆するやうであつた。

編集室

④ とうとう10号になつた。ぼく個人の感慨？から云へば、ともかく10号まではどんなことでもやめんとこ、それからアツサリかぶとを脱いで、もうアキマセンと云おうというものだった。

④ ア号から尾関君たちが応援してくれ、ぼくの責任はほとんどなくなつた。いよいよ一九七〇年。発行所や名儀はまだぼくの名前だが、自運は「第2期」ともいうべき新しい展開へとすゝみ出すべきだろう。

④ 自運のひとつの特徴は、アンケータを媒介とした読み手と送り手との直接的な結合である。へとして一号から延べにすれば千余の手紙がゆきましただろう。だがこの結合は紙面にほとんど反映されてゐない。へ原稿おくる、かくと申した人で、十分の一もそれが実行されなかつたことが、一つの原因だ。これからの自運は、これらの結合をどう紙面に引き出すか。表現していくか、が一つの目標だ。

④ だが、その方法をつくり出さなければならぬ、それはむずかしい、といふことはすでにわかつてゐる。とすれば、第2期の自運は玉砕を覚悟で、あと一号もう一号と、全力を尽して新しい紙面を創り出す試みをやらなアカン、とぼくは思ふ。我関紙と政治新聞とか同人紙というイメージをひっくりかえした、わけのわからんものを。

④ マンネリで、20号までつづいてゐることを考えるとゾーンとする。となつたらよいのか、社員として君も考えてください。（考）

④ 前号の「編集室」は、一面の向井論文「10・21の意」したもの、私的なものがきとして書かれたものであつたが、スペースの関係で全てを掲載できず、中途半端なところを終らざるをえなかつたことをおわびします。

④ その書けなかつた部分が「イオム」号として発行されてゐますので、希望者は20号切手同封の上、自由連合社までお申し込み下さい。

④ 来年は70年という年に入ります。がぼくには正直いつて心の準備も何も出来てゐない。ただ自運として、現在の自運の月刊発行に加えて、④ 自運の号外をしばしば出す。④ 英文「LIBERA FEDERACIO」を月刊発行し、70年に激刺する日本の歴史を外国に知らせる。④ 赤字財政解消のため「自運双書」というパンフレットを小冊子を隔月刊発行する、ことなどを考えてゐます。

④ 現在の自運は実に実に零細な企業です。ほとんどの仕事は気の遠くなる程根気のいる手仕事です。今のスタッフでは既に限界以上の仕事量です。じつは今も死ぬ気で編集室までよくよくとどろつきました。大阪近辺にあられる方、自運発行の仕事を手伝つて下さい。（弘）